

2022年9月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 9月えんだより

9月の聖句 「あるものは百倍にもなった。」

マルコによる福音書 4章1節～9節

日中はまだまだ厳しい暑さが続いています。しかし、「シャンシャンシャン」といった蝉の声はすっかり聞こえなくなりました。感染症の拡大や自然災害など、なかなか心配事が収まりませんが、夏の暑さ疲れを吹き飛ばし、次の季節を喜びと楽しみの中で過ごしていければと思います。

2019年12月4日、アフガニスタンで一人の日本人医師が武装勢力によって銃撃され、「命」を奪われました。その医師の名前は、「中村 哲（なかむらてつ）」。中村医師は、アフガニスタンの人々から親しみを込めて「カカ・ムラド（中村のおじさん）」と呼ばれていたそうです。

今から40年余り前の1984年、中村医師は「日本キリスト教海外医療伝導会（JOCS）」からパキスタンのペシャワールへ派遣されました。そのパキスタンで当時まん延していたハンセン病を患った人々に寄り添い、病の治療のみならず、病と現地の生活環境によって起こっていた「足の切断」を予防することに力を入れました。その予防方法は、病院内にサンダル工房を作り、患者に無償でサンダルを提供するというものでした。同時に、ハンセン病のため働くことができなくなった人を工房の助手として雇いました。当時の中村医師の思いは「そこまで掘り下げるのが医者の仕事」というものだったそうです。

その後、中村医師は活動場所を隣国のアフガニスタンに移します。当時のソ連による侵攻や内戦などによって、アフガニスタンの状況はパキスタンよりも厳しいもので、パキスタンのスタッフも中村医師に「アフガニスタンに力を」と協力されたそうです。この時のアフガニスタンでは、戦争と同時に、未曾有の大干ばつによる「水不足」も大きな問題となっており、多くの人々の命が奪われていました。ここで、中村医師は医療活動と共に「水不足」に立ち向かい、井戸の掘削や水路の建築に取り組みました。この水路の建築に際しては、先進国の技術によるコンクリート製ではなく、現地の人々が管理できる石を使った工法を取り入れました。この活動によって数十万人の人々の自給自足が可能になったといわれています。

カカ・ムラドこと中村医師は、中学生の時にキリストに出会い、「世のため人のためになる仕事をしたい」と医師を目指したそうです。中村医師と親交のあった牧師先生は、命を奪われた中村医師について、「キリストが愛を実践した人。最後は罪もないのに十字架にかかって・・・。」と語られたそうです。

若き中村医師の中に蒔かれた「キリストの愛」の種は大きく成長し、様々な地でサンダルづくり、井戸掘り、堤の補修等々、新たな実を結びました。そして、その実がまた新たな種となって蒔かれていきます。一つ一つの種がどのように成長し、どのような実をつけるのかをご存じなのは神様のみです。こどもたち、職員、おうちの方々や地域の方々と共に、大きな愛の実を結ぶことを信じ、お互いの中に「キリストの愛」の種を蒔くことができるような歩みを続けたいと思います。

9月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	あそぼう	いっしょに
月の願い	*興味を広げ、いろいろなあそびを試してみたり、体を動かしたりしてあそぶ楽しさを感じながら過ごしてほしいと思います。	*友だちと一緒にあそぶ中で、「たのしさ」や「くやしき」「よろこび」「むずかしき」など、友だちと一緒にだからこそ感じられる経験をたくさんしてほしいと思います。
讃美歌	「どんどこんどこ」 こども改 106	「どんどこんどこ」 こども改 106